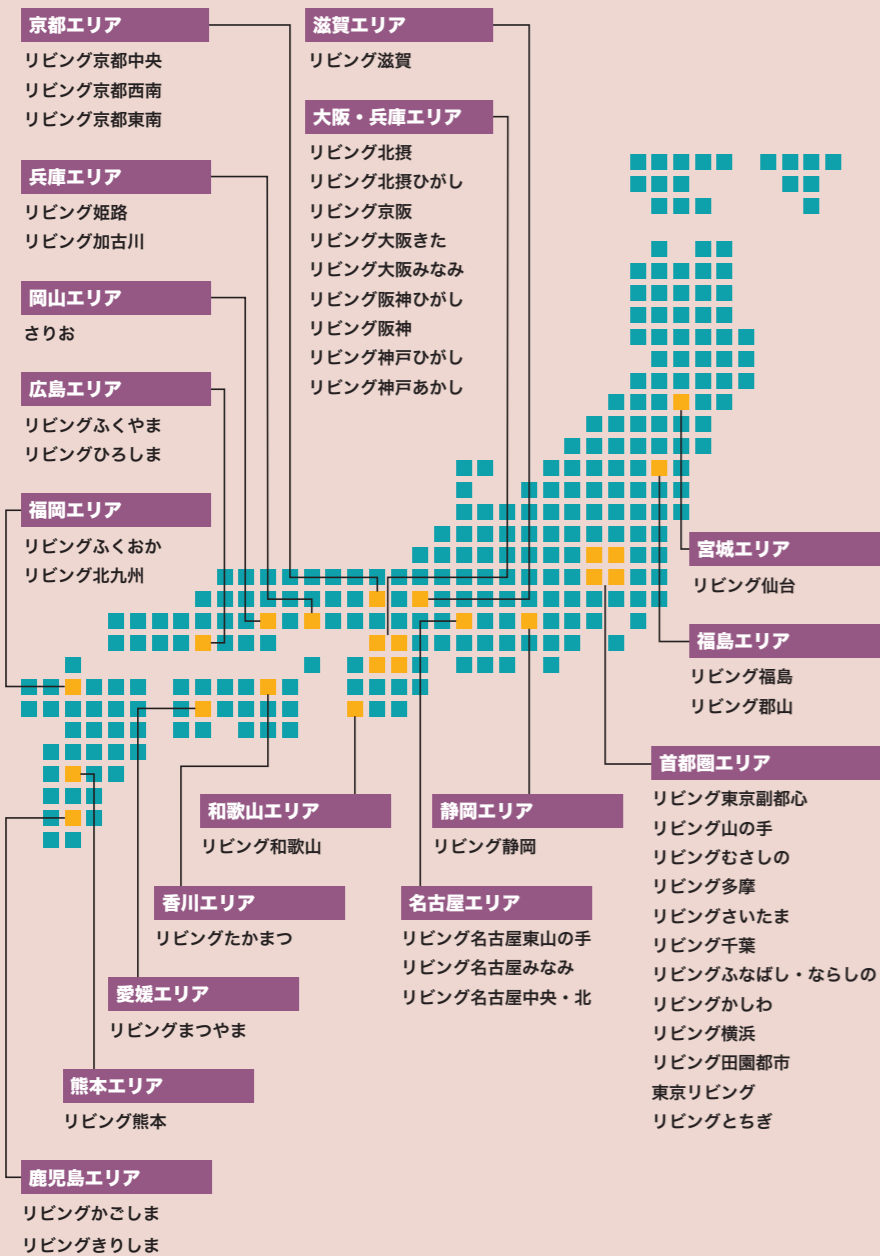


女性の笑顔と、地域の魅力を引き出した!

リビングネットワーク発 コンテンツ力が決め手のヒット企画

多くの情報があふれる中、女性たちの心を惹きつけ、行動してもらうために必要なことは何か? 今や「安い・お得」だけでは動かない女性たちが「これが知りたかった、見たかった、体験したかった!」と感じるコンテンツを、日々生み出しているリビングネットワーク。各編集長に、読者を動かす秘訣を聞いた。



Tokyo

サンケイリビング新聞社
リビング東京副都心 山の手 千葉 ふなばし・ならしの

吉田香月
東京統括編集長

**明るい笑顔の写真からも伝わる
前向きな生き方に読者も共感**

人生100年という時代を迎え、老後への不安が募る読者の心に響いた「アクティブシニアを応援!」企画。巻頭インタビューはキャシー中島さん。明るい笑顔の写真が目を引き、記事へとつながることができたのが高評価の要因の一つ。また、インタビューで語られた「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる」や「年を取ったら心のままに、自由にふるまいたい」などの言葉から、未来への心構えと元気を得られたという意見が多く、「老後」を考えるきっかけとなったようです。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ

飯塚香織
編集長

**かしわ編集部×パンブロガーで実現
ミセス、夫が動く…「パンフェス!!」**

地元の流通から「リビングならではのイベントを」とオファーを受け、2月に編集部発の「パンフェス!!」を実施。リビングかしわWebや、テレビでも話題のパンブロガーに監修を依頼し、選りすぐりのパン屋さん6店を決定。当日は朝から行列ができ、約2200個を完売と大盛況でした。パン好きなミセスはもちろん、リビング新聞を手に「妻から頼まれた!」と行列に並ぶ男性の姿も…。好評につき、11月には第2回を開催。こだわりのイベントには、読者、ファンが動く!と感じた瞬間でした。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台

山内春美
編集長

**バス旅が好評で9回催行の企画も!
美術、食への関心の高さを再認識**

リビング仙台ツアーでヒット作が続々。中でも、藤城清治美術館にチーズガーデンといった人気施設を組み合わせた那須ツアーは、この半年間で9回も催行し、毎回キャンセル待ちとなる人気ぶり。美術ファンの多さ、新元号の幕開けによる御用邸への関心の高さがうかがえました。食材王国みやぎの産直施設や、ブランド魚・伊達いわな、震災後に誕生したワイナリーなどをキーワードにした、行政タイアップの食ツアーも大好評! 旬をおさえたツアーで、今後もファンを増やしていきます。

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングとちぎ

三井美紀
編集長

**カフェごはんを楽しみながら自分磨き!
「宮女 夜活!美的レッスン」**

オシャレなカフェで美的センスを磨いて頂く「宮女(宇都宮女子=読者)のためのイベント「夜活!美的レッスン」を実施。イベント限定の特製プレートや今人気の「パーソナルカラー」「骨格スタイル診断」のレッスンを用意。20代~60代と幅広い年代の参加者は、おいしいカフェごはんを楽しみながら自分に本当に似合うカラー・デザインを学びました。最後はリビング恒例「お楽しみ抽選会」で大いに盛り上がり、参加者は大満足!「女子力UPにつながった」と喜んで頂けました。

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの

押切量子
副編集長

**6年続く「終活フォーラム」
衰えぬレスポンスは信頼の証**

税理士、信託銀行、FP、不動産関連会社などを講師に年2~3回行っている「終活フォーラム」。2014年から継続開催しているにも関わらず、毎回参加応募は定員オーバー。選ばれる理由は内容の良さと媒体に対する信頼です。参加者のアンケート、協賛社の要望をまとめ、回ごとに内容をブラッシュアップ。参加者・協賛社ともに満足していただくようフレームを整えた結果、競合多数のジャンルながら双方に「リビングなら間違いない!」という信頼を得るイベントに成長しました。

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩

押切量子
副編集長

**毎回キャンセル待ち多数
「桜ウォーク」は鉄板イベント**

緑豊かな多摩エリアには、桜の名所が多数点在しています。その名所を名物「桜守」とともに歩いて巡る「桜の札所巡り(桜ウォーク)」は、申込受付開始30分で定員50人に達することも、人気のイベントです。毎年、山または街、自然または歴史などコースを選べるようにし、ときには酒蔵見学や桜セミナーを加えるなど、飽きさせない工夫をするのが担当の腕の見せ所。2019年は新たな「桜守」も加わり、今までにない視点で桜巡りができたと好評を博しました。

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング福島 郡山

鈴木朱美
統括編集長

**「リビング子どもサミットL8」が
福島県主催イベントとして復活**

昨年度、東日本大震災特別企画として、小学生目線で福島県の人口減少を考える「リビング子どもサミットL8」を実施。廃校や空き家を観光資源として使う、プロの卓球チームをつくるなど、子どもらしい5案が完成し、福島県に提言しました。今年度は、福島県が企画に注目し、予算化。小学生版に加え、中学生15人によるサミットを開催しました。福島県の未来について真剣に話し合う姿に、県の担当者も編集部員も、参観していた保護者も引率の先生もみんな胸が熱くなりました。

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま

根松敦子
編集長

**リビング新聞にGACKT(ガクト)!?
意外性あるキャスティングが起爆剤に**

興行収入37億円超えの大ヒット、映画『翔んで埼玉』。映画公開に合わせて紙面とWebでコラボ企画を展開。主演のGACKTさんのインタビューに成功、巻頭に掲載したところ、エリア外からも「紙面がほしい!」という要望が多数寄せられました。Webではインタビュー再録に加え検定も実施。映画公式サイトにバナーを貼ってもらった効果も手伝い、該当月のPVは前月比217%に。検定全問正解者だけを対象にしたプレゼント応募にも2000件を超す申し込みがありました。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜

三山百合子
編集長

**「プレミア横浜倶楽部」スタート
読者が求めるのは食・学び・体験**

横浜を愛し、横浜を楽しむ会員組織「プレミア横浜倶楽部」が、10月からスタート。オリジナルイベントや特典付き観劇などの情報を定期的にメールで案内し、申し込みから入金まですべてWEBで決済するシステムです。11/1時点で約600人の応募があり、12月に実施する横浜の名所「三渓園・非公開の白雲荘見学と隣花苑の昼餉」には、会員のみメールの案内で、1日で定員に達するほどの人気ぶり。この積極的で参加意欲の高い層を今後も拡大していく予定です。

Denentoshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市

三山百合子
編集長

**狭い地域に17名の地域特派員
知りたいネタ&見出してPVゲット**

リビング田園都市WEBでは、17名の地域特派員が、ほぼ毎日地域の記事をアップ。狭いエリアながら、9月は21万PVを達成。中でもヒットしたのは、「うかい亭にて大贅沢ランチ~♪」の記事。田園マダムの特別な日の御用達のお店であり、行きやすいランチの情報がPV増につながりました。もう一つのラーメン店の記事には、「煮干し中毒者続出!」という見出しに惹かれたのか、こちらも2万2000PVを超えました。地域で行きたいネタ、インパクトのある見出しが注目を集めるコツです。

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡
松永恵理
編集長



**春・秋、年に2回開催！笑顔弾ける
「子育て親子ハッピーフェスタ2019」**

春と秋の年に2回の開催！ 未就学児を持つ保護者とその家族を対象とした「子育て親子ハッピーフェスタ」。秋の開催も開場と同時に多くの人であふれました。子どもはボウリングや魚釣り、ママにはうれしいサンプリングも。体操教室では、何度も参加する元気な子どももいるほど！ 静岡県では、家族間のコミュニケーションを深める日として「家族の日」を推奨し、その一助にもなりました。来場者は450組以上。事前申し込み者にはお土産も用意するなどの特典の工夫もキモだったと思います。

Nagoya

名古屋リビング新聞社
リビング名古屋中央・北
名古屋東山の手 名古屋みなみ
前田悠子
副編集長



**名古屋の未来を描いた「街めぐり絵」
2歳から95歳まで個性が光る！**

創刊20周年締めめの企画として、未来の名古屋をテーマにした「街めぐり絵コンテスト」を実施。「将来、名古屋コーチンは空を飛んでいるかも!？」など、イラストレーターさんと一緒に、遊び心いっぱいめでり絵を考案。紙面で掲載し、色をぬった作品を募集したところ、2歳から95歳まで、個性豊かな力作が集まりました。「街の未来を想像しながら、どんな色にするのかを考えるのが楽しかった！」との声も。郵送応募のみというアナログな企画でしたが、予想以上の反響となりました。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都
山舗恵子
編集部長



**毎回定員を超える応募が！
女性のための創業セミナー**

創業を目指す女性たちを応援する「女性のための創業セミナー」を企画（主催・京都信用保証協会）。1年に3回開催しましたが、毎回定員の50人をはるかに超える応募がありました。1部は創業して活躍する先輩たちの体験談、2部は創業準備に必要な公認会計士や中小企業診断士からの話、そして3部は講師と参加者同士の交流会。企画を始めて3年目で、今年は昨年参加者だった女性が先輩起業家として登壇するなど話題性も高く、今後ますます注目される企画となっています。

Osaka

サンケイリビング新聞社
リビング北摂 北摂ひかし 京阪
大阪きた 大阪みなみ
伴晴香
大阪エリア編集長



**瞑想・健康・教育・おしゃれ
6つの講座に応募者1000人超**

昨年3月、地元ホテルで「人生100年時代の幸せを考える」をテーマにしたイベントを実施。多彩なセミナーで集客を図ろうと、編集・営業・カルチャー担当が総力をあげて取り組んだ結果、「瞑想で心を整える」「国立循環器病研究センター講師の適塩食講座」「ほめる達人協会認定講師の子どもを伸ばす褒め言葉」「カラーコーディネートが教えるおしゃれ&若見えの黄金律」など6つの企画が成立。定員320人のところ1068人の応募があり、イベント盛り上げに一役買っすることができました。

Wakayama

和歌山リビング新聞社
リビング和歌山
野田知世
編集長



**編集部女子スタッフが考えた
“大人女子旅”が次々にヒット！**

リビング和歌山の紙面コーナー「働く女性を応援する“ワーキングライフ”」で企画してきた日帰りツアー“大人女子旅”が続々ヒット。フォトジェニックな場所やグルメ、買いたい物、バス旅ならではの“飲み”もちょっぴり盛り込んで、編集部女子スタッフがにお出かけ先を厳選して第5弾を数えるまでに。1年半ほどで16回のツアーを催行し、延べ約500人の読者に参加していただきました。すっかり大人女子旅のファンになってくれたリピーターもいて、毎回次なるプランを期待する声が寄せられます！

Himeji/Kakogawa

播磨リビング新聞社
リビング姫路 加古川
佐治彰一
取締役編集部長兼編集長



**新ジャンル地域情報誌にあえて挑戦
季刊誌「HaPLUS(ハプラス)」創刊**

圏域人口185万人、兵庫県の約4割の広さをもつ「播磨」。長年培った地域情報の取材力を生かし、人知れず眠る播磨の魅力をもっと多くの人と共有したい。そんな思いから季刊誌「ハプラス」を6月に創刊しました。読者ターゲットはワンランク上の情報を求めるアッパーミドルの男女。こだわりの写真と読み応えのあるテキストで構成した紙面は、販売最前線の書店員の間で「地元愛をとっても感じる」と話題に。出版不況のなか創刊号は2500冊を売り上げ、紙媒体の底力を再認識いただきました。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀
木下香苗
副編集長



**全国から応募続々の「俳句特集」
第3回では県知事が審査員長に**

昨今の俳句人気を受け、「リビング滋賀」では2018年11月から「俳句特集」を不定期で連載中。読者からの作品を紙面で紹介しています。優秀作に対し賞品などは設けていないのですが、回を重ねるごとに投句数、応募者の年代とも拡大中（ウェブ上でも募集しているためか、全国から投句が!）。第3回では、俳句が趣味という三日月大造知事を審査員長に迎え、さらなる盛り上がりを見せました。今後は行政を巻き込んだイベント立案など、より大規模な展開ができるよう検討中です。

Osaka/Hyogo

サンケイリビング新聞社
リビング神戸ひかし 神戸あかし
阪神 阪神ひかし
大音彩子
編集長



**コスパに敏感な読者に訴える
マツタケ&和牛でヒット**

昨年、延べ3310人が利用した「リビング別注ランチ」を10月・11月に実施。神戸・阪神間のホテルと邸宅レストラン14社に“お得感がある、ことを条件に、読者限定ランチをオーダーしました。設定料金は2500円・3000円・3500円（税・サ込み）。一番人気はマツタケや和牛など高級食材を使った、3500円の日本料理のコース。ランチとしては高めながら、多くの読者から「プチぜいたくをしたい」という声。1カ月で900食が売れ、読者の“コスパ、への敏感さを改めて思い知りました。

Okayama

山陽リビングメディア
さりお
谷川恵子
編集長



**地元・無印良品の協力を得て開催
読者と学びを共有する「みんなの学校」**

「暮らしを彩る」「世界が広がる」というテーマのもと、読者と学びを共有するセミナー「みんなの学校」を企画。地元の無印良品の協力を得て、同店内のオープンスペースで、計7回実施しました。大人の絵本、防災、哲学など、テーマは多岐にわたり、老若男女問わず多彩な読者が参加。満足度も高く、大好評でした。弊社では、この冬新媒体「さりお」を創刊。読者と思いを共有し、つながることをモットーに、「さりお」が“温かなコミュニティ”となるような紙面作りを進めています。

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま
綿谷千恵子
編集グループ 編集長



**オリジナル企画で毎回掲載即満席に
「大人の社会見学バスツアー」**

昨年1月の「柑橘収穫&マーマレード作りとジャム工場見学」を皮切りに、年間6回実施してきた「大人の社会見学バスツアー」が、毎回掲載後すぐに満席になるほど好評。平成最後の硬貨を作っている大阪「造幣局」とリビング新聞の「印刷工場」、丹波の「黒枝豆狩り」、一般公開が人気の「太陽の塔の内部」など、話題とタイミングを捉えた大人の知的好奇心を満たす独自企画で、多くのリピーターも獲得。企画力と集客力が共同企画のバス会社に評価され、新たな出稿にもつながっています。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま
白石恵美
デスク



**恒例のイベントが新しい取り組みで
より読者・協賛企業に喜ばれる内容に**

恒例の「リビングKID'Sフェスタ」は、2017年から地域最大のショッピングモール「エミフルMASAKI」で開催。今年は紙面で募集したキッズたちが「ハロウィンキッズパレード」を行い、扮装したキッズにショッピング中のお客さんも大喜び。また、愛媛県とタッグを組み、同時開催した「みかんフェスタ」では、ミカン詰め放題コーナーで早々に完売になる賑わいぶり。協賛企業の方にも我々にとっても、「直接、消費者と触れあう機会」となるこのイベント、既に来年の話が出ています。

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本
松田恵美子
編集長



**「がん免疫療法」に関するセミナーを
初開催。定員超えの437名が応募**

不定期ながら年に3～5回ほどの頻度で弊社主催の医療セミナーを開催し、乳がんや脳卒中、静脈瘤など専門分野のドクターに講演をいただいています。3月には「がん治療の新たな主流“免疫療法”」と題し、第一線で活躍する専門家3名によるセミナーを初開催。2回の告知で、定員300名を大きく超える応募をいただきました。第4の治療法として注目を集める“免疫療法”は、ご自身や家族ががんに罹患している、将来の備えとして情報収集したいなど、多くの読者に興味をもっていただけました。

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま
高山由美子
編集長



**やっぱり子どもが楽しめるのが一番
デパートの屋上で家族の思い出を**

毎年、家族で楽しめるイベントを企画していますが、「やっぱり、子どもが楽しめるのが一番」という社内での意見により、一昨年から「キッズ博覧会」という名称を入れて開催。昨年は11月にそごう広島店本館の屋上で行いました。赤ちゃんのハイハイカタカタレースから、DJ体験、パリスタ体験など、子どもたちは夢中に。ライブステージや絵巻ショー、ハンドメイドのワークショップなどもあり、2000人以上が秋の一日を満喫。創刊40周年の今年につながるイベントになりました。

Kitakyushu

福岡リビング
リビング北九州
川上慶子
副編集長



**無料イベントで、参加率100%!
リニューアル記念の関門夜景ツアー**

リビング北九州のリニューアルを記念して実施した、参加無料の「ぐるっと関門夜景バスツアー」。普段SNSを使っている人限定で、メールのみの受け付けでしたが、応募数は定員の40人を上回りました。当日は、当選者が全員参加。平日の夕方出発で、雨だったにもかかわらず、参加率100%！ 普段行かない地元の名所へ、改めて行ってみたいという読者は想像以上に多いようです。リニューアル記念で「地元の魅力再発見」をテーマにしたことが、良い結果につながったのではないのでしょうか。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま きりしま
内村由美子
編集長



**老後の資金確保は読者の切実な関心事
「マネ活セミナー」が大好評！**

昨年6月、金融庁が「公的年金以外に老後資金2000万円が必要」と公表したのを機に、突如、7月に予定していた「マネ活セミナー」への応募が急増。定員60人に対し、5倍を超える応募がありました。急遽広い会場に変更して対応しましたが、老後の資金確保や消費増税への不安から、多くの女性が具体的な金融知識を求めていることを痛感。そこでイベントを継続的に追加開催。子育て世代向け、高齢者向け、と対象を細分化した展開も奏功し、毎回好評を博しました。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ
谷本小百合
編集長



**興味はあるけど気後れする…
その一歩をカルチャー講座で後押し**

ひと昔前まで“オヤジの遊戯”的イメージが強かったボートレースも、今やカップルやファミリーで遊べる一大レジャー施設に。それを体感してもらうべく、来場のきっかけにオシャレな講座を無料開催。定員20人で女性向け4講座・子ども向け2講座を年2回募集しますが、6年目を迎えた今年度もキャンセル待ちが出るほどの盛況ぶり。アクセサリやネイル、苔玉などを作って、レースにも挑戦。やっぱり女性は、「キレイ」と「実用的なモノ」と「ドキドキ」が大好きなのです。

Fukuoka

福岡リビング
リビングふくおか
前田和美
統括編集長



**「男はつらいよ」「女もつらいよ」
読者のホンネが集まった川柳大会**

2019年は、「男はつらいよ」50周年および50作目の公開年。女性なら一度は「女もつらいよ!」と思ったことがあるのではないかと、「男はつらいよ」「女もつらいよ」の2部門で川柳コンテストを実施。ホテルのペアランチ券や映画鑑賞券、映画関連書籍、DVDを賞品として提供いただき、映画公開に合わせて新春号で優秀作を発表。合計約428句が集まりました。映画自体の知名度に加え、日常のつづやきを投稿できるため応募のハードルが低く、共感を得られたのではないと思います。